

淀江の石馬から考える 6世紀の山陰

日時
令和7年

10月12日 日

【午前の部】 10:00 ~ 12:00 (開場 9:30 ~)
【午後の部】 14:00 ~ 16:00 (開場 13:30 ~)

会場 米子市淀江文化センター
イベントホール
米子市淀江町西原708-4

参加費
無料
※要事前申込

各回定員
100名



盾持人はいわ [井手挾3号墳]



石馬

講師 佐古和枝氏 関西外国語大学 教授

鳥取県米子市出身。NPO法人「むきばんだ応援団」副団長として米子市妻木晩田遺跡の普及活用に取り組む。

現在、文化庁文化審議会第一及び第三専門調査会専門委員、長崎県文化財保護審議会委員など。主な著書は、「吉野ヶ里～繁栄した弥生都市」、「ようこそ考古学の世界へ」、「海と山の王国～妻木晩田遺跡が問いかけるもの」ほか多数。



講座概要

淀江町に伝わる石馬は、本来は古墳に樹立するもので、それは6世紀に北・中部九州を掌握して継体天皇に反旗を翻した「筑紫君磐井」の勢力範囲に特有の風習です。その一方、淀江には継体政権と密接な関係を示す貴重な副葬品をもつ古墳もあります。

山陰では、九州から吹く風とヤマトから吹く風が、それぞれどのように届いていたのか。また、そのなかで地元の個性はどのように発露していたのか。6世紀の淀江を理解するために、当時の山陰地方の様子を概観してみましょう。

東大人文・淀江プロジェクトとは

1901年日本の考古学・人類学の草分けと評される坪井正五郎氏（東京帝国大学教授）は淀江町を訪ね、本州唯一の石馬に注目しました。また、長者ヶ平から発見された金銅製冠は、今も東京大学に保管されています。そのような縁もあって、東京大学文学部に、令和4年から当面5年間の予定で立ち上がった淀江研究のプロジェクトです。
令和4年7月にスタートアップ・シンポジウム、令和6年1月に第2回シンポジウム、令和6年11月に第3回シンポジウム、令和4年11月と令和5年1月、令和6年10月に市民講座、令和5年3月と令和7年3月、7月に特別講座を実施しました。

申込み方法 ※9/1 9時から先着申込受付開始

電話・FAX・メール等で

- ① 代表者お名前
- ② 代表者ご連絡先電話番号
- ③ 参加希望時間
- ④ 参加希望人数（代表者含む）を添えて
米子市淀江文化センターにお申込みください。

- 電話 0859-39-4050
- FAX 0859-39-4051
- Eメール saname@yonagobunka.net
- メール申込フォーム QRコード

< 開館時間 > 9:00 ~ 22:00
< 休館日 > 毎週水曜日



主催 東大人文・淀江プロジェクト

[東大問い合わせ先] プロジェクト室(佐藤) ☎03-5841-4046 hsato@u-tokyo.ac.jp
事務担当(瀧口) ☎03-5841-4028

共催 米子市、一般財団法人 米子市文化財団 [米子市淀江文化センター]

後援 鳥取県、NPO 法人 むきばんだ応援団、「古代淀江ロマン遺跡回廊」推進会議